



夢いろいろ = 新春に思うこと

監 事 稲垣良利

新しい年を迎えました。会員の皆さまも沢山の夢や想いを持って迎えられたことと存じます。今年も平穏で楽しい年になることを祈っています。さて、年の初めにあたって夢について述べてみたいと思います。



1. 私が武四郎記念館に通うようになったきっかけ

平成 17 年の秋に津中央公民館の歴史探訪で、白山町の成願寺を訪れそこで大きな「仏涅槃図」を観ました。程なくして記念館にも訪れる機会がありました。その日は「武四郎の午睡図」が展示されており因縁を感じると共に武四郎が 6 度の探査により「大蝦夷図」を作ったことに感銘を受けました。又、直ぐ近くに長く住んで居ながら、武四郎のことを全く知らなかったことに、恥ずかしく思い勉強しなければと思いました。

2. 約 10 年経ち実現したこと(勿論、私が実現させたわけではありませんが・・・)

- ①友の会が発足し、武四郎講座が毎月開催されていること、エゾヤマザクラを北海道新聞社から贈っていただき、毎年 4 月中旬に可憐な花が咲くようになったこと、神鏡を訪ねる研修バス旅行が定着してきたこと、松阪市外の記念館・博物館との交流ができたこと、松阪市内の偉人顕彰団体との交流が深まってきていること、県下では初めてとなる武四郎の歌碑が記念館入口に建立できたことなど地道な活動が定着してきたこと。
- ②友の会の有志で始めた「誕生地の庭木の手入れや部屋の清掃」が「誕生地保存会」に引き継がれ、将来に向けてボランティアガイド育成も始まったこと。
- ③多くの方に武四郎の名が浸透しメディアも注目してきたこと。特に 27 年には、「NHK＝歴史秘話ヒストリア」、「愛知テレビ＝探 Q! A トリップ」、「東海テレビ＝お宝照英」などで放映され、多くの視聴者が、記念館を訪れるようになってきていること。

3. これからの夢

2 年後の平成 30 年には武四郎生誕 200 年、没後 130 年を迎えます。奇しくも友の会も発足後丸 10 年となります。その時には現在行っている事業が更に発展すると共に、友の会の組織体制も充実し、行政や市民から期待される団体となることが一つの夢です。

もう一つの夢は、日本以外の国の方々にも武四郎を知っていただき、「武四郎の考え＝人としての関わり方」を理解してもらえるようになることです。

未熟者ですが、皆様のご鞭撻・ご支援のもと、友の会活動に協力して参りますので、宜しくお願いいたします。



謹賀新年

今年も宜しく
お願い致します。
役員一同

友の会懇談会の報告

会員懇談会を12月13日(日)に開催しました。

主な意見・提案は次の通りです。順不同。今後役員会で検討します。

- ◆春の研修旅行は継続して欲しい：武四郎抜きも、分骨碑墓参など、アンケートをとっては。
- ◆武四郎の足跡を訪ねる旅：威徳天満宮・蔵王堂など吉野周辺、大杉谷ダム湖へ紅葉の時期に。
- ◆他の地域で活動されている団体との交流会を：伊勢『足代弘訓』、津『谷川土清』など
- ◆武四郎作の漢詩も紹介して欲しい。
- ◆インターネットで情報発信をしては・・・：
友の会の活動を掲載する(写真パネルなど)
- ◆武四郎の偉人さをどのように広めていくか
☆紙芝居の出前授業 ☆活動はグループ体制を
☆長期休日を利用して子供が楽しめる教室を
☆武四郎が困難を克服した体験を伝える



活発な意見が出ました

健康と親睦を兼ねたバスハイクの開催

11月7日(土)「ウォーキングクラブみくも」との共催で、バスで岐阜県郡上八幡へ行き、ハイキングを実施しました。参加者は25名(その内友の会会員が14名)で、曇り空の中を紅葉の時期に和気藹藹と語りながら歴史的景観を観て歩きました。

郡上八幡城は遠藤盛数が永禄2年(1559年)に築城し、現在の城は昭和6年に再建されました。郡上八幡の町はお城と谷川の町で中心を清流(吉田川)が貫き、用水が縦横に走り、いたるところに清冽な湧水があり、全国名水百選に選ばれた宗祇水、「やなかの小径」や「いがわのこみち」をゆっくりと、湧水を飲みながら散策しました。郡上八幡の天守閣からの一望は市街地と城周辺の紅葉が実に美しく、ゆったりした散策も参加者の方々から喜ばれました。



紅葉に囲まれた郡上八幡城

会員交流懇談会での意見もあり、友の会会長とウォーキングクラブみくもの双方の会長が同じという関係もあって、今回のバスハイクの実現となり、今回の行事が好評であったことに感謝すると同時に正にこれが健康と親睦に繋がるウォーキングであったと感じています。

小野江小学校児童が武四郎を学ぶ(友の会飯田会長が講師を勤めました!!)

地元(小野江)小学校の3年生・5年生を対象に、武四郎を学ぶカリキュラムに出前講師を始めて今年で5年目の節目となるため、記事にしました。

10月5日(月)は5年生を、11月10日(火)は3年生(2クラス)



熱心にメモをとる生徒達(真覚寺にて)

53名を対象に学校内で武四郎の生涯を年代別に講話をしてから、伊勢街道沿いに設置された

屋号看板の説明をしながら子どもたちといっしょになって歩き、武四郎誕生地の案内、武四郎が7歳から読み書きを習った真覚寺では、来応和尚が書かれた木板の話などや武四郎の幼少時代の話をした後は、県道沿いに在る常夜燈へ出向き、此の場所へ移設するまでは200m東の渡し場に在った事や常夜燈の歴史・当時の役割などを説明した後は、県道沿いを歩いて蝦夷山桜と武四郎



教室での講義

歌碑の説明をし、小学校へ戻り全員で記念撮影、最後には、子ども達からは感謝の言葉や握手を交わし、会長の話を聞いて武四郎さんのすごさや今まで知らなかったことを学ぶことが出来たという言葉も多く頂きました。後日、全員の感想文を届けられると共に質問も多く貰いましたが、全て子ども達が分かりやすく納得の出来る返事を担任の先生に届けています。

今回は5年目の節目でもあり、報道関係者へも情報提供したので、地元新聞に掲載され、また、松阪ケーブルテレビでも放映されました。

「さいくう平安の杜フェスタ」参加の報告

10月24日～25日に新しく完成した正殿、西脇殿、東脇殿の一般公開が開催されました。斎王や倭姫に関する撮影会など多くのイベントや機織り体験の催しがありました。

また、三重県内の文化施設のコーナーも設けられ、「松浦武四郎」のコーナーでは、武四郎に関する展示及び友の会活動の展示も行いました。中でも友の会が記念館前に設置した「武四郎が詠んだ歌碑」に関心が集まりました。



友の会活動の展示



お手伝いいただいた方々



正殿前で記念撮影

誕生地保存会の研修報告

1. 「斎宮界隈を巡る」

10月1日(木)に研修会が開催され、31名の方が参加されました。今回は「斎宮界隈を巡る」をテーマに、斎宮歴史博物館・いつきのみや歴史体験館及び復元された三殿の見学と、斎宮周辺の伊勢街道散策を行いました。

平成30年には武四郎生誕200年、没後130年を迎えますので、その際には武四郎に関係する施設の案内などが期待され、今回の研修を参考に保存会としても誕生地や・記念館に来られた方々に説明が出来るようになっていくことが望めます。

2. 「武四郎誕生地界隈を巡る」=案内技能養成

12月12日(土)に会員が誕生地周辺の案内が出来るようになることを目的とした研修会が開催されました。

地元の方々始め28名が参加し、真覚寺、金田一桜、誕生地、伊勢街道、小野江常夜燈、蝦夷ヤマザクラ、武四郎の歌碑などを巡り、それぞれのポイントについて飯田会長から説明を受けました。



蝦夷ヤマザクラの説明



小野江常夜燈の説明

【記念館よいのお知らせ】

☆武四郎講座のご案内 ※下記は予定ですので、変更になる場合があります

2月14日(日)10時～11時30分・・・友の会主催

テーマ：掛軸・巻子の保存修理と取り扱い 講師：坂田墨珠堂

4月10日(日)10時～11時

テーマ：武四郎と伊勢神宮 講師：山本命（松浦武四郎記念館 主任学芸員）

☆講演会のご案内 ※下記は予定ですので、変更になる場合があります

3月13日(日)10時～12時

演題：明治13年の武四郎—庚申紀行を読む 講師：佐藤貞夫先生

☆企画展示のご案内

◆テーマ：武四郎をめぐる文人たち ～ 平成28年1月17日(日)まで

文人としての武四郎の姿と、武四郎と交友のあった文人から武四郎へ贈られた作品を紹介します。

◆テーマ：武四郎の涅槃図 1月19日(火) ～ 3月13日(日)

奇妙奇天烈、摩訶不思議な武四郎涅槃図の世界を紹介します。

◆テーマ：武四郎をめぐる志士たち 3月15日(火) ～ 5月8日(日)

幕末に尊王攘夷思想を抱き、吉田松陰をはじめ多くの志士たちと交友した武四郎の姿を紹介します。

総会の予定

5月8日(日)の講座会の後(11時頃から)平成28年度総会を開催する予定です。

【友の会よいのお知らせ】

28年度の神鏡を訪ねるバス研修旅行 予告（下記内容で実施する予定です。）

実施日：平成28年6月13日(月)、又は(大雨など天候により)20日(月)

研修先：吉野天満神社「威徳天満宮」、金峰山寺蔵王堂、吉野山ビジターセンターなど

募集時期：4月初めにお知らせ・募集しますので、日を空けておいてください。

いつきのみや梅まつりの案内

斎宮歴史博物館友の会と当友の会とは友好関係にあり、28年の「いつきのみや梅まつり」は3月6日(日)に開催されますが、先方のご好意で、当友の会もテントをお借りして武四郎の功績や、友の会活動の展示をさせていただき予定です。

※長らくお世話になりました佐波さんが、家庭の事情で副会長を退任されました。会員としては引き続き参加されます。ご挨拶文をいただきましたので紹介します。

◆ありがとうございました。

松浦武四郎友の会発足時より副会長という私にとって身に余る役割を会長様始め役員様そして会員様の温かいご指導、ご協力を得てなんとか続けさせて頂くことが出来ました。厚く御礼申し上げます。

まだまだ役割を果たせないままですが、この度一身上の都合により退くことになりました。

これからは、武四郎さんを愛する会員の一人として皆様にご指導いただきながら学んでいきたいと考えておりますので、これからもよろしくお願ひ致します。

佐波早苗